

身高 Dream Project

上級学校見学会

本校のキャリア教育における秋の大きな行事である「上級学校見学会・職場見学会」が3年ぶりに行われました。1年次生は全員が「産業社会と人間」の授業の一環で、四年制大学と専門学校を見学に行ってきました。2年次生は、各自の進路に応じて進路ガイダンスを受講し、専門学校、四年制大学と更に細かいコースに分かれて見学しました。また、就職希望者は「職場見学会」として一般企業や町役場などを訪問して、工場の見学や働いている方のお話を聞き、働く意義を考えるいい機会となりました。

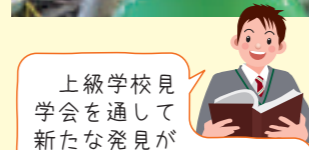
1年次生は、この見学会で見たこと、学んだことをポスターやスライドにしてまとめます。この学習を通じて、自分の考えをまとめる力を身につけたり、自分の進路に対する意識を向上させていきます。また生徒たちは12月14日(水)に中高一貫教育事業の一つである「キャリアセミナー」で、身延中学校・南部中学校でも発表を行う予定です。



東京に行って学校を見学できる機会がなかなか無いし、直接見に行くことでしかわからないこともあるので、実際に見られて良かった。自分から進んで見学するいい機会となった。



知らなかったことを知ることができた事で、その仕事に対するイメージが変わった。プラスなことだけでなく、マイナスな面も知ることができたので、よく調べて進路を考えようと思った。



上級学校見学会を通して新たな発見がいくつもあった。細かく教えていただけたおかげで、自分の学びたいことがその学校にあるのか、学校の雰囲気はどうかなどネットで調べても分からないことまで知ることができた。



実際に専門学校の中へ初めて入ったけれど、それに関わる器具や教室がたくさんあって凄いなと思った。本当に専門のものしかないのだと思った。そして学科によってその分野のプロの先生がいることに驚いた。

ウォーキング大会

10月28日(金)にウォーキング大会が保護者の方をはじめ関係各所のご協力のもと実施されました。

昨年度より、従来の強歩大会から身延路の自然や久遠寺、門前町の風情に触れながら地元の文化や歴史に親しみ自己のペースで歩く「ウォーキング大会」と形式を変えています。新型コロナウイルスの影響もあり、まだまだ生活しづらい日々が続いていますが、自然を感じ、身延の文化に触れ、地域の温かみを実感する充実した一日となりました。



マイペースで歩くのは気持ちいい!

SHINKO 身高VIEW

Vol.23
2022.November
MINOBU HIGH SCHOOL

実りの秋特集号



山梨県立身延高等学校
祝 創立100周年記念式典

陽光差し込む 100年目の身延の秋



100周年記念事業

記念講演会 講師 鈴木 大地氏

「スポーツから学んだ人生のたからもの」

本校は今年で創立100周年を迎え、記念式典が10月9日に開催されました。会場を本校体育館と身延町総合文化会館に分け、オンラインで接続し、リモートで実施しました。多くのご来賓の方々にご臨席していただき、100年の節目を祝いました。

式典後は、ソウルオリンピック100m背泳ぎ金メダリスト、初代スポーツ庁長官で順天堂大学教授の鈴木大地先生に記念講演をしていただきました。実体験に基づく講演は、聞く人全ての心に響きました。



記念講演を聞いての感想

2年C組 佐野菜菜 身延中学校出身

私は今回の記念講演で鈴木大地先生のお話を聞いて、「挫折」を前向きに捉えることが大切だと感じました。挫折というのは人の気持ちに寄り添える人間になるための経験の1つだと教えていただきました。またオリンピックやスポーツは国境を越えて人と人を繋いでくれると思います。言葉はわからなくてもスポーツにける思いやそれまでの努力はみんな同じなのだと感じました。身延高校の100周年記念に貴重なお話を聞くことができて良かったです。



とても良い講演内容で勉強になりました

鈴木大地先生は、とても気さくな方でした



式典に臨んでの感想

3年A組 久本祐康 早川中学校出身

100周年という歴史ある本校の生徒であることを誇りに思います。今回式典に参加させていただき、身延高校が今まで続いてこられたのは同窓会の皆さんや町の支援があるからだ改めて感じることが出来ました。生徒代表挨拶という機会を授かり、貴重な体験をさせていただいたことは一生忘れません。



本年度は「世界をつなぐさまざまな物語と多様性」をテーマに開催されました。美術の特別展では、南インドの都市チェンナイにある小さな出版社タラブックスのシルクスクリーン作品を展示しました。タラブックスは絵本や児童書、教育や社会に関する書籍を手掛ける出版社です。 Cottonの古布を原料に手漉きの紙に、シルクスクリーンという技法を用いて手で印刷されています。手縫い製本により作られた絵本は、絵の美しさはもちろん、その制作背景なども含めて世界でも高く評価されています。

本来であれば捨てられるはずの廃棄物に、デザインやアイデアといった新たな付加価値を持たせることで、別の新しい製品にアップグレードして生まれ変わらせる「アップサイクル」の成功事例であり、ゴンド族という少数民族の文化や、絵画の美しさなどハンドメイドの絵本が教えてくれたものは、未来に向けて重要な示唆を与えてくれるものでした。作品だけでなく、制作の様子の写真も展示されました。少数民族などのローカルな文化を通してその制作背景や意義を理解する展示となりました。

身近なところでできる国際貢献事業ということで、読み終わった本の交換会を兼ねた古本寄付事業と、フェアトレードコーヒー豆の焙煎ワークショップなどを行いました。この事業を通して、良い本に出会うことが出来た生徒もいたようでした。また、コーヒー豆は、アフリカはルワンダ、中南米ではエクアドルやメキシコ、東南アジアでは東ティモールやラオス、タイなど様々な生産地のコーヒー豆を農業協働組合から直接取り扱っている企業のご厚意により、そろえることが出来ました。自分の手で焙煎したコーヒー豆をミルで挽き、お湯を注ぐと、ふっくらと膨らみました。生産地の背景に思いをはせつつ、淹れたてのコーヒーを皆でいただきました。

最終日に行われた福祉講演会では国際事業に従事されているベトナムとフィリピン、ヨルダンのJICA協力隊の方々をお迎えしました。それぞれの国で抱えている社会問題について、実際にどのような活動を行っているのかなどを現地とオンラインでお話いただきました。普段、開発途上国の実情について話を聞く機会は少ないため、多様な世界を知るきっかけとなりました。

福祉講演会を聞いての高校生の感想

日本から、世界に向けて色々な活動を頑張っていることがわかってよかった。途上国での色々な問題に尽力している人がいるという事実、心を動かされた。

言語は違っても、同じ人間として支え合う大切さを改めて知れた。私も多くの人の心の架け橋になる存在になれるよう努力したい。

世界の文化やSDGsのことについて知るきっかけになったのでよかった。

他国の人々のために現地へ行って支援するその行動力がすごいと思いました。私たち高校生が現地へ行くことは難しいけど、現地に行かずとも海外の人々のためにできることがあったらしていきたいと思いました。

ライフミュージアムの中学生の感想

インドの絵本は紙を一から作っていることに驚きました。 Cottonの紙は厚くて触り心地がとても良かったです。絵もとても細かくてじっくり見てもあきないようなものでした。町内に住む人の作品がどれも細かくてとてもきれいでした。

それぞれの世界観が、作品を見ていく中、いろいろあって、面白かったです。

不思議な絵がたくさんあって、何を表しているのか考えるのが面白かったです。もっと色々な作品を見たいなと思いました。

心をぐっぐつつかんでくる作品ばかりでまじまじと見てしまいました。一つ一つの作品に迫力があり、もっと見ていたかったです。



身延高校ライフミュージアムは、山梨県のSDGs体験事業の助成金により運営されています。社会的な課題を探る授業の成果物を展示することで、生徒たちの未来に向けての学びを促すことを目的としています。身延地域の中高一貫教育の事業のひとつとして、今後も運営を進めていきます。